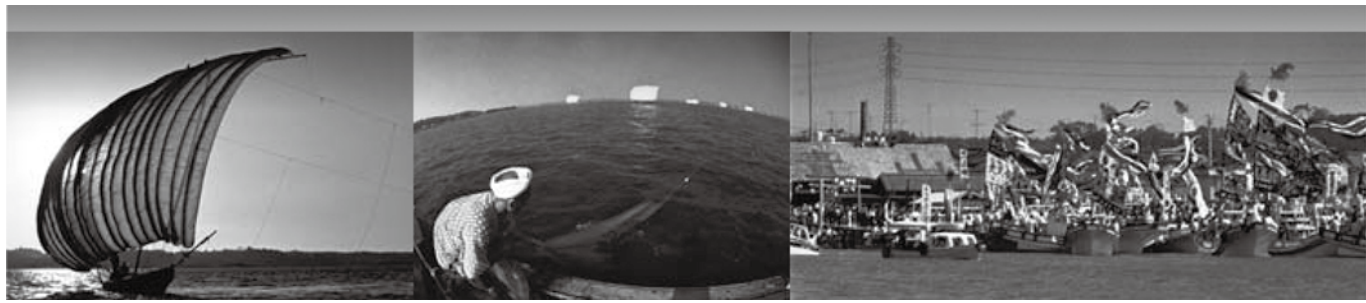




タイムスケジュール ～参加自由・入場無料～

12:30 [第1部]霞ヶ浦フォトコンテスト表彰式

14:20 [第2部]霞ヶ浦帆引き船シンポジウム

14:25 基調講演／柳生 博

テーマ 自然との共存 ～守りたい宝～



柳生博 profile

1937 年阿見町出身。俳優、(財)日本野鳥の会会長、コウノトリファンクラブ会長。ハヶ岳南麓に居をかまえ、花鳥風月の里山の重要性を訴え続けている。

15:30 パネルディスカッション

テーマ 未来へ出航！霞ヶ浦の帆引き船

コーディネータ

☑ 芦川智(昭和女子大学教授)

パネリスト

☑ 細川英邦(☎みちのく北方漁船博物館長)

☑ 桐原泰弘(茨城県地域計画課長)

☑ 藤原俊之(茨城県観光物産課長)

☑ 戸田 廣(霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員長)

☑ 沓掛博光(旅行ジャーナリスト・筑波学院大学講師)

☑ 水島敏夫(☎旅行読売出版社代表取締役社長)

☑ 秋元昭臣(☎ラクスマリナ専務取締役)

未来へ出航！
霞ヶ浦帆引き船シンポジウム・写真展示会

《帆引き船の歴史》

- 明治 13 年 ● 折本良平が帆引き網漁を考案
- 明治 30 年 ● 折本良平が第 2 回水産博覧会で褒章を受賞
- 明治 35 年 ● 田伏在住であった坂本金吉(坂本九氏の祖父)が秋田県へ移住。帆引き船を八郎潟へ伝承
- 昭和 42 年 ● トロール漁が主流となり帆引き網漁が衰退
- 昭和 46 年 ● 帆引き船 1 艘を観光用として操業開始
- 平成 13 年 ● 随伴船(見学船)を観光帆引き船に改修し 2 艘引き操業開始
- 平成 14 年 ● 読売新聞社・(財)休暇村協会主催「訪ねてみたい 21 世紀に残す日本の風景遺産 100 選」に選定
霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会が設立。毎年フォトコンテストや模型作り教室を開催し、帆引き船の伝承と霞ヶ浦観光のイメージアップに力を注ぐ
- 平成 16 年 ● 新造船初操業
「帆引き船発祥の地」宣言
- 平成 17 年 ● 「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に認定
- 平成 20 年 ● 第 23 回国民文化祭・いばらき 2008 で皇太子殿下が帆引き船の模型作りをご視察
- 平成 21 年 ● 読売新聞創刊 135 周年記念事業の「平成百景」に認定
「霞ヶ浦帆引き船模型」が茨城県郷土工芸品とかすみがうら市推奨品「湖山の宝」に認定
- 平成 22 年 ● 「月夜の帆引き船」ライトアップ鑑賞会



フォトコンテスト 2011 の受賞作品などの写真展を同時開催しています。ぜひ会場をご覧ください。

大切な地域資源として
帆引き船の未来をもに考えよう

引き網漁は、明治 13 年、シラウオ漁を目的に坂村二ノ宮(旧霞ヶ浦町)の折本良平によって考案され、その後ワカサギ漁の主役として昭和 42 年までの約 100 年間、霞ヶ浦漁業の花形として一世を風靡しました。帆の原理を応用し、船体からのみでなく、帆の上部にも「つり縄」を結び、上下から綱で網を引くことができたため、帆柱に負荷がかからず、しつかりと風を受け、力強くスピードを出すことができた画期的な漁でした。当時、良平自身が漁の指導をしたこともあり、沿岸の漁民の間にまたたく間に普及し、数千人の漁民が生活の安定を得たとされます。

と水という自然の力を効率的に利用したエコパワーによるこの伝統漁法は、スローライフなど、自然と人との共生を体現するシンボル。また、動力船にとって変わられたわずか 4 年後に観光用として復活し 40 年経った現在まで続いているのは、その功績を称えるのと同時に、湖上に帆を広げた勇壮な姿が今もなおカメラマンをはじめ多くの観光客を魅了している証。いま、網大工や船大工、漁師の技術の伝承が危ぶまれる中、今回のシンポジウムを通して、帆引き船の魅力と存在意義を多くの皆さんと共有し、地域を代表する資源を後世に伝えるため、帆引き船の未来について一緒に考えてみませんか。



かすみがうら市

未来へ出航！

霞ヶ浦帆引き船シンポジウム・写真展示会

平成23年度 シンポジウム助成事業

平成24年2月11日(土) 14:20~18:00

土浦市民会館 (土浦市東真鍋町2番6号)

基調講演: 柳生 博
テーマ: 自然との共存 ～守りたい宝～

パネルディスカッション
テーマ: 未来へ出航！霞ヶ浦の帆引き船

主催: 霞ヶ浦帆引き船シンポジウム実行委員会、かすみがうら市、財団法人自治総合センター
後援: 総務省、茨城県、国土交通省霞ヶ浦河川事務所、土浦市、行方市、読売新聞社、旅行読売出版社、かすみがうら市観光協会、土浦市観光協会、行方市観光協会、かすみがうら市商工会、霞ヶ浦漁業協同組合、霞ヶ浦漁業協同組合かすみがうら市支部、霞ヶ浦水産加工業協同組合、JA土浦、利根川舟運・地域づくり協議会
協賛: ラクスマリナ、利根コカ・コーラボトリング、霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会

問い合わせ: かすみがうら市環境経済部観光商工課内
霞ヶ浦帆引き船シンポジウム実行委員会事務局
TEL: 029-897-1111 FAX: 029-897-1243
http://www.city.kasumigaura.ibaraki.jp/

このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

「茨城の水産」茨城県水産試験場、昭和7年(独立行政法人水産総合研究センター所蔵)